



「函館」の地名の由来



函館の古名は宇須岸(うすけし)といわれ、臼岸とも書かれました。宇須岸は湾の端を意味するアイヌ語のウシロケシ。あるいは海潮を受ける飛島の意味のウシムケモシリに由来します。函館の地名は、1455(享徳3)年に松前藩の祖武田信広とともに蝦夷地に渡ったといわれる河野加賀守政通が建てた館が、箱の形に見えたので「箱館」となったという説。アイヌ語のハクチャシ(小さな館)からきたという説。河野政通が1445(文安2)年に館を築いたとき、土中から筐篋(かごと箱)が出たので地名とした説など諸説があります。

函館の古名は宇須岸(うすけし)といわれ、臼岸とも書かれました。宇須岸は湾の端を意味するアイヌ語のウシロケシ。あるいは海潮を受ける飛島の意味のウシムケモシリに由来します。函館の地名は、1455(享徳3)年に松前藩の祖武田信広とともに蝦夷地に渡ったといわれる河野加賀守政通が建てた館が、箱の形に見えたので「箱館」となったという説。アイヌ語のハクチャシ(小さな館)からきたという説。河野政通が1445(文安2)年に館を築いたとき、土中から筐篋(かごと箱)が出たので地名とした説など諸説があります。



知らないかったわ。もっともっと函館の町名の由来や歴史が知りたい！

私たちが住んでいる函館の町名には、それぞれ名前前の由来や歴史があります。例えば「日乃出町」は、日の出がよく見える場所なので「日乃出町」という町名が付いたといわれています。「日乃出町」は、以前「砂山町」と呼ばれ、石川啄木も砂山の歌を詠みました。



調査ファイル No. 121
「函館の町名の由来」
について調査せよ!!

各「町名」の由来

市内にはたくさんの町がありますが、その中でも印象的な町名の由来をピックアップ!

- 「榎本町」…明治政府で外務大臣や文部大臣、通信大臣などを歴任。全権大使としてロシアで樺太・千島交換条約を結んだ「榎本武揚」の名字からとったと言われています。
- 「金堀町」…昔から砂鉄がたくさん取れたので金堀町と名付けられたそうです。その昔、金堀町には大森浜にそそぐ小川があり、金堀川と呼ばれていました。
- 「乃木町」…幕末の箱館戦争にも従軍した「乃木希典」を祀っている「乃木神社」があることから、この名前が付けられました。
- 「人見町」…箱館戦争で活躍した「人見勝太郎」が町名の由来になっているそうです。蝦夷共和国で松前奉行を務め、峠下村(現在の七飯町峠下)などで奮戦しました。
- 「松川町」…北海道開拓、特に函館で五稜郭や乗願寺川(現在の新川)の工事などに関わった「松川弁之助」に由来していると言われています。
- 「八幡町」…亀田八幡宮がある町なので、この名が付けられました。
- 「宮前町」…亀田八幡宮の社前にあるためこの町名になりました。
- 「田家町」…土地が特に豊かで、合併前の亀田農業の中心地だったことからこの町名が付けられたそうです。
- 「時任町」…明治初期に活躍した、函館県令の上級官僚「時任為基」の名前から町名が付けられたといわれています。
- 「弁天町」…函館で最も古い町のひとつで、その名前は昔あった弁天堂(現在の厳島神社)に由来するそうです。
- 「宇賀浦町」…宇賀の浦に面していることから町名が付けられたとされています。宇賀とはアイヌ語の「ウカウシラリ(重なっている岩)」の「ウカウ」が転じたもので、浦は浜辺などを指す言葉です。



【旧町名碑】

函館市が先人たちに親しまれていた旧町名や由来を後世に継承していくことを目的に、平成3年から8年にかけて設置しました。昭和40年に変更となった西部地区～大門地区27ヶ所と昭和53～55年に「美原1丁目～5丁目」「赤川1丁目」に変更となった「赤川通町」を含む28ヶ所にあります。

参考文献:函館町物語/元木省吾著 写真提供:函館中央図書館



- 「本町」…名付けたのは幕末・明治期の北海道開拓者「松川弁之助」。松川は自費で作った松川街道ができた時、中の橋から日本ミシン(現在の北海道新聞社の場所)までが函館の幹線なので本町と称したのが始まりです。
- 「梁川町」…戊辰戦争で旧幕臣として最後まで新政府に抵抗した武人「榎本武揚」の書の号「梁川(りょうせん)」を訓読みして付けられたと言われています。
- 「中島町」…箱館戦争時「千代ヶ岡陣屋」で戦死した「中島三郎助父子」の名字が町名になりました。
- 「千代台町」…鶴は千年から「千年の世」という意味の千代を使い、千代台や千代ヶ岡と呼ばれ始めたようです。それがいつしか定着し千代台になりました。
- 「駒場町」…「駒」は馬を意味し、競馬場があるから駒場町という名前に。湯の川村が町制を施行した時にできた地名です。
- 「的場町」…砂山(現在の日乃出町)に向かって旧日本陸軍の射撃場がありました。射撃場を昔は「射的場」と呼んでいたため、的場町と名付けられたと言われています。
- 「白鳥町」…奥州の和賀郡(現在の岩手県)から渡って来て松前藩に仕え、代々亀田番所の代官を務めていた白鳥家から取ったと言われています。
- 「東川町」…1859(安政6)年、堀川乗願という函館西別院の僧侶が、治水工事の一環として造った亀田川。その東側にできたため東川町と呼ばれました。西側には西川町という町もありました。
- 「鍛冶町」…1800年代までは鍛冶村(旧村名は鍛冶屋村)、その後、亀田市鍛冶町を経て1973(昭和48)年の合併で函館市鍛冶町に。町名地番区域の改正前には現在の弥生町周辺にも鍛冶町があり町の西端に鍛冶屋が住んでいたことからこの名になったと伝えられています。



タイチャーからのお知らせ

『函館なんでも調査隊』は、来月号からさらにパワーアップ!! みなさんが普段から気になっていることや、調べてほしいことなど、ダテバー編集部宛にハガキ、手紙、メール(hensyuu@print-house.jp)などでどんどん送ってくださるまえ。楽しみにしています!!